



太郎・次郎

石岡市立東成井小学校
学校だより 4号
令和6年4月23日
校長 石崎 重臣

「太郎・次郎」は、校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】 児童が主役 みつけよう かんがえよう やってみよう～認める 寄り添う 支える～

みんなで学ぼう！ ～「教科担任制」について

公立小学校の授業の一部を、学級担任以外の教員が受け持つ「教科担任制」が、2022年度から全国で本格的に導入されました。本校でも今年度から、中・高学年生の学習で取り入れています。

【3年生】書写…	先生	【4年生】書写…	先生
【5年生】書写…	先生	社会 …	先生
【6年生】書写…	先生	外国語…	先生

「教科担任制」の導入は、小・中学校のつながりや学年の変わり目などをスムーズにすることで、学びの質を高め、義務教育の9年間をさらに有効なものにしようとしています。具体的には、下記のような効果が期待されます。

① 学力向上につながる効果

専門性の高い教員がさまざまな教材を活用してより熟練した指導を行えることです。より分かりやすく、質の高い授業によって、子どもの「学習内容の理解度が高まり、学力向上につながり」ます。また、教員1人が担当する授業数の軽減や授業準備の効率化によって、教育活動が充実したり、教員の負担が軽減したりすることで、学びの質を高めた指導に結びついていきます。

② 心の安定を図る効果

学級担任だけでなく、教科担任を加えた複数の視点で子どもを理解することや信頼関係を深めることで、「子どもの心が安定する」ことです。近年におけるコロナ禍の影響や不登校児童の増加を考慮したとき、学校が子どもにとって安心・安全な場であることがますます重要になってきます。教科担任制によってその効果を高めることが期待されます。

③ 小・中学校の円滑な接続を目指す効果

小・中学校間の連携によって、「小学校から中学校への円滑な接続（中1ギャップの解消など）が進む」ことです。教科担任制による研修が進めば、小・中学校の教員が互いの授業を参考にしたり、情報を共有したりする機会も増えます。子どもたちにとっても、中学校での授業の雰囲気をおらかじめ知っておくことができ、安心感が生まれます。結果、中学校生活になじみやすくなり、「中1ギャップ」の解消が期待できます。

また、タブレットなどを使った学習（GIGA スクール構想）も進めつつ、子どもたち自身が考えを深め合える「学び合い活動」を重視していく方向性でいます。多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、才能を存分に伸ばすことができるような、新たな授業・指導を目指して、東成井小全体で「学ぶ体制」を築いていきます。



学校だより「太郎・次郎」はホームページの「各種たより」からもご覧になれます。

東成井小学校HPアドレス

<https://www.ishioka-school.ed.jp/page/dir000015.html>